



▲只見町プロジェクトと地域おこし協力隊の1年間の成果を発表した報告会



▲只見町プロジェクトの成果を発表した吉津瑞穂創生企画係長

第1部で行われた只見町プロジェクトの活動成果報告会では、始めに菅家町長が「当プロジェクトは、若手・中堅職員を中心に1年間議論を深め、職員から具体的な施策が提案された。施策は次年度の予算にも組み込まれており、今回町民の皆さまにもこの取り組みをご理解いただき、地域との連携をさらに深めていきたい」とあいさつしました。

プロジェクトメンバーが 活動成果を報告

町の最大の課題である人口減少の克服を目指し、昨年4月に只見町役場内の事業としてスタートした「只見町プロジェクト」と町内で活動する6名の地域おこし協力隊の活動成果報告会が3月19日、只見振興センターで開催され、町民など約40名が参加しました。

続いて、橋本副町長が当プロジェクトを始めた4つの意義として表1のとおり、役場組織の枠組みを超えた多角的な視点での検討、課題の共有、



▲約1年間、各部署から参加した職員

只見町の未来について考える 「只見町プロジェクト」 「地域おこし協力隊」 活動成果報告会

平成30年度 只見町プロジェクト 地域おこし協力隊 活動成果報告会



▲地域おこし協力隊の発表会に出席した左から渡部教育長、菅家町長、阿部利浩隊員、浜津航矢隊員、橋本拓馬隊員、山科麻伊隊員、藤沼航平隊員、渡辺史隊員、橋本副町長



▲3年の任期を終えた橋本隊員(左)と山科隊員(右)

【表1】只見町プロジェクトの目的 — 只見町の人口減少の克服 —

- ①役場組織の縦割りを超えた庁内の横断的な枠組みの中での多角的な視点での検討
- ②将来を背負う町の若手・中堅職員の人材育成
- ③町の課題の共有
- ④事業化に向けた検討

職員の人材育成、事業化に向けた検討について説明し、「当該プロジェクトはまだ途中経過であり、今後も継続していく必要があると考えます」と総括しました。

成果報告では、地域創生課創生企画係の吉津瑞穂係長が、只見町を取り巻く人口減少による課題やPTの取り組みについて詳しく説明しました。プロジェクトメンバーが「町の人口減少に対する意見」について、区長連絡協議会や婦人会、老人会、農商工観光団体などを対象にヒアリングを実施し、その結果やこれまでの議論を踏まえ、既存事業のブラッシュアップを図り、新規事業として除雪オペレーター確保支援、移住定住推進プラン、只見線観光路線化事業、戊辰遺産活用事業などに取組むことを紹介しました。

地域おこし協力隊6名が 活動成果報告発表

第2部では、町内の各分野で活躍される地域おこし協力隊6名による活動成果報告会

が行われました。

隊員1年目の教育振興協力隊・阿部利浩さんは教育委員会に在籍し、「高校の魅力化」活動をテーマに、全国の高校の取り組みなどを報告しました。教育振興協力隊で隊員1年目の浜津航矢さんと隊員2年目の渡辺史さんは「町の公営塾『心志塾』の講師として活動されており、塾での取り組みや課題について報告されました。隊員2年目の山村振興協力隊・藤沼航平さんは森林の分校ふざわで活動され、情報発信や地域資源の活用などについて報告しました。隊員3年目の観光振興協力隊・橋本拓馬さんは会津ただみ振興公社で活動され、キャンプ場での取り組みなどを報告しました。同じく隊員3年目の観光振興協力隊・山科麻伊さんは観光商工課に在籍し、「只見の観光を盛り上げる」をテーマに、インバウンド対策などの取り組みを報告しました。講評では、菅家町長が「6名の隊員全員が素晴らしい取り組みであった。今回あった提案は町の中でも検討していきたい」と述べました。